

2. 日本の恐慌と東アジア情勢

日本では

第一次世界大戦後の1920年代は、次々と恐慌が発生します。

1920年 (戦後) 恐慌... ● 列強の生産力が回復し輸出が後退して株価が暴落

● 綿花・生糸の相場が暴落

↓
1923年 (震災) 恐慌... 関東大震災により混乱、不景気に、

↓
1927年 (金融) 恐慌... 多くの銀行が休業・倒産する。
(大戦中に過剰投資を行ったから)

● 当時の大蔵大臣の失言で、不安を感じた預金者が銀行に殺到して、預金の払い戻しを受ける (取りつけ騒ぎ) が発生。

● 預金をおろそうとした人々に対し、政府はあとから支払うことを約束し、急いでつくった紙幣 (裏白紙幣) を大量に発行。

↓
預金は 五大銀行 へ集中した。

(三井・三菱・住友・安田・第一)

↓
(田中義一) 内閣は、(支払猶予令 (モラトリアム)) を実施したり、日本銀行による非常貸し出しを行うことにより、金融恐慌を終息させた。

また、四大財閥は倒産した新興財閥を吸収し、さらに成長拡大し産業を独占しました。